

# 株式会社ヨシダ消毒訪問記

訪問者

(公社) 東京都ベストコントロール協会 副会長・機関誌編集委員長 元木 貢

技術委員 小松 謙之

今回の会員訪問は、石神井公園の近くの東京都練馬区石神井町7-20-20に本社を構える株式会社 ヨシダ消毒です。社長の清水一郎さんは去る2月23日に開催された協会の定時総会で会長に就任されました。横浜、八王子、品川、練馬、江東、新宿、中野、板橋、立川、大宮、所沢、高崎に支社及び営業所があります。

ホームページで、「生態系を視野にいれた害虫獣及び菌類のコントロールを柱として建築物管理業、緑化事業等の営業を通じて、作業と生活の[安全]身体と精神の[健康]エネルギーと経費の[効率]化そして[快適]に全ての生命が【共生】—Symbiosis—できる空間の創造に努めて参ります」と紹介しています。



(元木) 本日はあいにく嵐のような天候のなか、またお忙しいところ、お時間をとっていただきありがとうございます。会員訪問シリーズは今回で9回目となります。会員各社の設立の経緯、得意分野、取組みなどご紹介いただき、会員同士切磋琢磨し、また協力していこうとの目的で始まりました。このたび清水一郎社長が当協会の会長に就任されまし



た。まことにおめでとうございます。

(元木) 3代目の社長となられたとのことですが、まず御社の設立の経緯を聞かせてください。

(清水) 昭和41年に、台東保健所で環境衛生監視員として飲食店や映画館など興業場の指導をしていた吉田鍬二(ようじ)が50代のころ吉田消毒研究所を創業し、浅草エリアを中心に活動していました。昭和59年に株式会社ヨシダ消毒に社名変更、吉田邦二が代表取締役就任しました。シロアリの業務や官庁の仕事が増えてきました。平成20年に社長をバトンタッチしました。

(小松) 清水社長はどのようにして入社されたのですか？

(清水) 東海大学海洋学部にて在学中、ヨシダ消毒でアルバイトをしていました。ユスリカの駆除作業が盛んでした。大学の卒論が淡水魚の胃の内容物を調べて食性の研究をしていましたので、ユスリカはよく顕微鏡で見えていました。こういう調査ができて、冬は2カ月ぐらい休みをとれるというので、趣味のスキーもできていなと思って入社しました。入ったら1日も休みがありませんでした。(笑い)

(元木) 清水社長は入社後、理化学研究所で勉強されたとうかがっていますが、どんなことを勉強されたのですか。

(清水) 中外製薬で当時部長だった岩本さんが「おもしろい奴がいる」といって「勉強しに行くといいだろう」ということで、筑波科学万博に1年間常駐したあと、理化学研究所を紹介してくれました。ダリア根で殺虫剤を開発したインセクト

ロンの深見先生とデミリンを開発した先生に2年ほど指導を受けました。

(元木) 第1回ペストロジー学会で「ヨトウガ輪精管およびゴキブリの腸管における蠕動運動と抑制剤」を発表されましたね。こちらに抄録集がありますが。

(清水) そのころDDTの使用が禁止され殺虫剤が危ないと騒がれたころで、ヨトウガやゴキブリの蠕動運動を抑制すれば腸での消化ができなくなり精子の抑制もできるので、殺虫剤を使わないでも駆除ができるのではないかといろいろな試薬を調べました。この報告は応用動物昆虫学会でも発表しました。

(元木) 生物的防除のさきがけでしたね。

(小松) つくば科学博でご活躍されたときのエピソードがありましたら聞かせてください。

(清水) 開催する3年前から調査事業が開始されました。そのときは原生林で、ネズミ、害虫類、ヘビなどの生き物の調査をしました。そのときに谷川さんと初めてお会いしました。熊谷市のチサンホテルに宿泊して三共消毒の大野さん達と毎晩飲んで仲良くなりました。2カ月前からイカリの熊谷さんと寝泊りを一緒にしてスタートしました。博覧会は日本ペストコントロール協会が契約しておりましたが、パビリオンや飲食店は別契約でしたので、2カ月間営業活動を任されて苦労しました。半年前から仕様書も作りました。先代の社長が協会の理事をやっていた関係ですべて任せてもらえ、19社が集まって若手がすべて運営したのでいい経験になりました。3交代で24時間

# 株式会社ヨシダ消毒訪問記

体制でした。イカリ消毒さんが捕虫器を設置していたので、それに捕獲された大量の虫をイカリの川上さんがメインで同定を担当しました。紅谷一郎さんも一緒でした。自衛隊が敵から逃れるため煙幕を使うと聞いたので、早朝に燻煙剤を焚いて水面に被膜を張って羽化するユスリカを駆除しました。とても効果的でした。ケバエも人が歩けないくらい大量発生してスイングホグで駆除しました。発生予察もしましたが考えもしないことが起こりましたね。飲食店ではゴキブリは問題なかったのですが、パピリオンにアカネズミやハタネズミが入ってきて電線を齧って照明が落ちる事故もありました。忌避剤のシクロヘキシミドを配線に塗布しました。ネズミ害虫に関することはすべて責任を持たされました。この経験がなかったらこの業界に残っていなかったかもしれません。若い人たちにも経験させてあげたいですね。やりがいも出てきますので。

(元木) 会社はどのようなお仕事をされているのでしょうか？



捕獲した野生動物置き場

(清水) 蚊の対策を行政から受けています。薬剤の選定、仕様書づくり、ローテーションも提案しています。行政に温度差があるので、もっと広がっていきたいです。ハクビシン、アライグマ、カラス、ヘビ、ハチなどの屋外の仕事が多いです。

(元木) 得意分野は何ですか？

(清水) 年間で決まった仕事よりも、突発的な仕事が得意です。死体やノロウイルスの消毒もあります。人が困っているところへいち早く乗り入れて助けたいです。小笠原も毎年定期的に1カ月ほど行っています。

(元木) 今後他社にない取組みがおありですか？

(清水) トピックな仕事、先端の仕事に取組みたいです。ビルの仕事など夜間の作業はほとんどやっていません。ですから辞める人もほとんどいません。業界の異端児でありたいと思っています。

(元木) 昨年のペストロジー学会東京大会では御社の皆様に案内係をお願いしました。皆さん、連携が見事で遅滞なく大会が終了しました。そのあとの打上げ会でも全員でおもてなしいただき楽し



冷凍庫とカラス餌用冷蔵庫

いひと時を過ごさせていただきました。  
社員の研修や育成はどのようにされていますか？

(清水) とくだん変わったことはやっていません。私の考え方、熱意、お客様の立場で考えるようにとは普段から言っています。所長会議で全部の営業所を順番に回っていますが、私は参加しないようにしています。

私は植物を栽培するのが好きなので、鉢植を営業所に持参して育ててもらっています。植物の世話をするのは、人を大切にすることと通じるところがありますので。

(元木) 人材採用では会員の皆さんご苦労されていると思いますが、御社ではいかがですか？

(清水) 採用はアルバイトからしか採用していません。アルバイトが試用期間みたいなもので、50人ぐらいいる中から能力のある人、元気な人を採用します。

(元木) 清水社長は3代目で創業家ではないのですが、後継者をどのように考えられていますか？

(清水) 自分の後は社内から登用すると明言しています。安定した会社にしてバトンタッチをしたいと思っています。株の譲渡が難しいですね。

(小松) 協会の会長、会社の経営、ライオンズクラブ、バスケットの監督そのほか沢山の役職をされ、ますますお忙しいと思いますが、仕事をこなしていく秘訣などありましたら教えてください。

(清水) 休むという感覚がありません。時間



があれば埋めていってしまうのが好きです。リフレッシュできるのがバスケットです。小学生を80人ぐらい教えており、毎週試合があり、成長させるにはどうするかというのは、仕事に通じるところがあります。将来どうするか、チームとしてどうするか、勝つためにはどうしたらいいか、考えることを求めています。自分から指示することはありません。どう動いたらいいのか、何を準備したらいいのかを聞く。リーダーシップは会社とバスケットと共通するものがかなりあります。選抜チームを組んで優秀な子供を集めて、そこでコミュニケーション能力をどのくらいつけられるか、自分に試される部分が多々あってそこがおもしろい。横の連携ができるとチーム力が一気に上がる。目標をひとつにすると結果が出てくる。会社でも一緒ですね。

こんな会長ですけど宜しく願います。

(元木) 本日は貴重な話をお伺いさせていただきました。ありがとうございます。